

2015年度

JICA研修コースの実績紹介

「水環境行政」コース



2015年11月24日

(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

1. 研修コースの紹介

1) コースリーダー / 植山 高次



2) 研修コース 名

- 和文： 水環境行政
- 英文： Water Environment Administration

3) 研修受入れ期間： 2015/5/17 ~ 2015/7/08

4) 参加研修員： 10名 (8カ国)

参加国内訳

- ①カーボヴェルデ ②ジンバヴェ ③エジプト ④ウルグアイ
- ⑤カンボジア(2) ⑥フィジー ⑦ミャンマー ⑧スリランカ(2)

【参加研修員の国名と位置】



世界の8カ国から派遣された10名の研修員の皆さんが、北九州市（JICA九州）に集まり、「水環境行政」に関する技術研修に参加しました。

2. 研修目標

案件 目標

研修にて作成された所属組織におけるアクションプランを実施し
所属組織における水環境行政が強化される。

自国での実施



日本での研修



(単元目標Ⅰ) 日本の水環境行政

:日本の水環境行政や地方自治体の水環境の取り組みについて説明ができ、自国の水環境に活かすことができる。

(単元目標Ⅱ) 水環境対策

:日本の環境対策を理解し地方の状況にあった水環境行政策立案に役立てることができる。

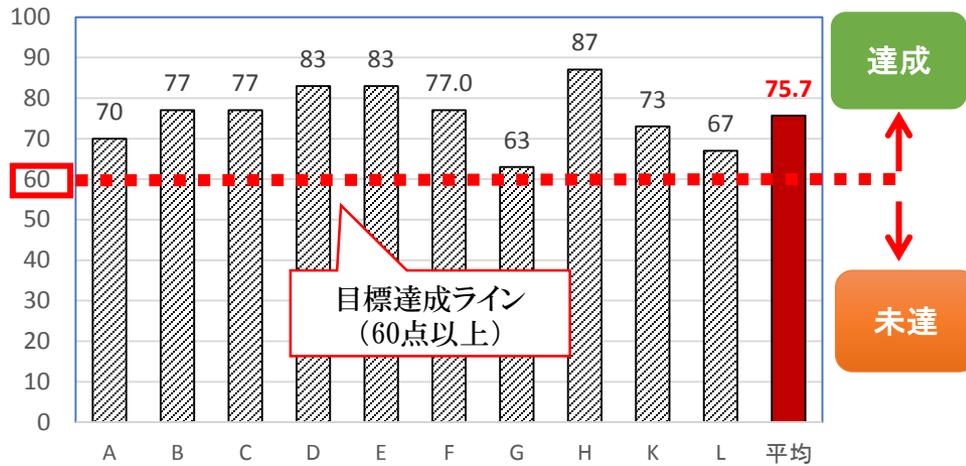
(単元目標Ⅲ) アクションプラン

:研修員各々の水環境への取り組みについて、アクションプランが作成される。

3. 研修員の達成度

1 各研修員のアクションプラン評価

アクションプラン評価点



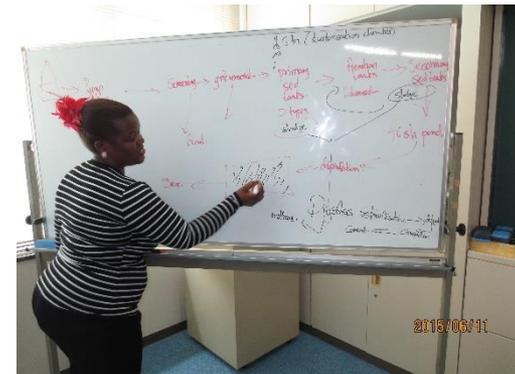
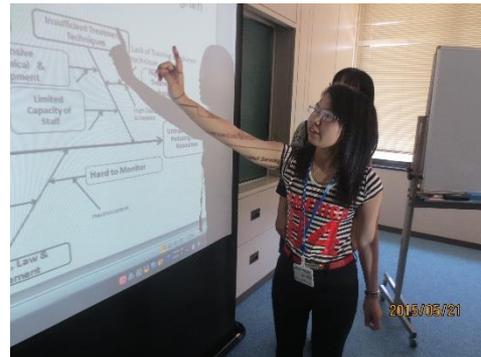
評価結果は、全員が目標（60点以上）をクリアーした

2 評価基準

研修内容を踏まえて作成したA Pの発表内容を評価した。評価基準の判断材料として次の内容を参考に総合評価。



A P発表会の参加者（審査員6名）の評価点が60点以上を合格基準とした。



4. 研修に関する所見

1) 研修員の科目評価

今年度のカリキュラム改訂も含め、研修員の満足度はかなり高いレベルでした。相対的に評価が高い科目は下記が挙げられる。

- ①浄化槽技術講義、②浄化槽見学、③水俣病研修、④日明浄化センター及び展示場見学
- ⑤湖沼と河川流域管理、⑥プランクトン観察と展示、⑦バイオトイレ

2) 次回のカリキュラムへの反映

全面的にカリキュラムを組み直した今回の第1回「水環境行政」コースは、週報・質問表・評価会での研修員意見から判断して、大変興味をもって受け入れられました。

3) 新シリーズ「水環境行政」の評価

今回の「水環境行政」コースは、新シリーズ用に組んだカリキュラムでしたが、研修員から高評価を得ました。新たにスタートした第1回「水環境行政」コースを無事終了することができほっとしています。成功に導いて頂いた関係者の皆様に深く感謝致します。

4) 研修コースを終えて

良いコースになるか否かは、参加する研修員の質に大いに左右されるとの印象を更に深めました。本コースでは、エレノアさん(フィジー)がリーダーとしてチームをまとめ、ニアリィ(ジンバブエ)がムードメーカーの役割を果たし、とても積極的かつまとまりの良いコースとなりました。

5. 研修員スピーチ

研修員の感動スピーチ (於：閉講式)



閉講式でスピーチされたエレノアさん(フィジーから参加)

Ms. WAQANIBARAVI Elenoa Kiti (通称:エレノアさん)の謝辞 ～研修員代表～

◆和訳全文をご紹介します。

JICA 九州国際センター 所長 井崎様、

KITA 理事長 古野様、

ご列席の皆様、

このコースの研修員仲間を代表して感謝の意を表したいと思います。私たちは3つの異なる地域、8つの異なる国、6つの異なる言語を話す外国人として、さまざまな期待を胸にこの地に到着しました。



古野理事長より修了証書を授与されたエレノアさん

7週間日本で過ごしたことは、私たちにとって重要な学習経験でした。私たちそれぞれが体験した日本の思い出を胸にしまい、それぞれの国に帰国するでしょう。

例えば、迷子になって帰る道を探そうとしたこと、衣類用粉末洗剤の代わりに食器用洗剤を買ってしまったことなど、楽しい経験をしました。確実に私たちが進歩し続けるだろうことの一つは、時間管理です。もはやスリランカ時間やエジプト時間、太平洋時間ではなく、日本の時間になりました。

日本を訪れ学ぶ機会を与えてくださり、本当にありがとうございます。「浄化槽」は私たちが決して忘れることのない言葉です。喜び、悲しみ、経験、知識を分かち合ってください、感謝しています。





私たちは祝福されこの地を出発します。私たちの国で直面している問題において一人ではないと自信を持つことができました。私たちには、ここ日本に問題解決の手助けをしてくれる助言者がいます。

おもてなしをして頂き心を開いてくださり、ありがとうございます。日本を、そしてその人々、文化を愛するようになりました。私たちは、北九州を母国から離れたホームだと思うようになりました。KICのスタッフ、フロントの皆さん、カフェの皆さん、このセンターの皆様感謝を述べたいです。滞在を楽しいものにしてくださり、本当にありがとうございました。

UEYAMA-san（植山コースリーダー）、SUETA-san（末田コースリーダー）、お忙しいところ知識を分け与えてくださりありがとうございます。お二人と知り合えたことは名誉あることです。インスピレーションを与えてくださいました。とても興味深いコースプログラムを計画してくださりありがとうございました。そして講師の方々、訪問させていただいた企業、日本の多くを見させていただけました。とても良い経験でした。スバラシイ。ありがとうございました。

KIDA-san (JICA木田オフィサー)、NANAMURA-san(JICA中村オフィサー)、
全てがうまくいくように陰で一生懸命働いていただき、ありがとうございました。
よくお世話をしていただき、心地よく過ごすことができました。

IWASE-san (岩瀬コーディネーター)、何と申したら良いのでしょうか？あなたは
本当に素晴らしい。私たちが観光客でなくJICA研修員だということを常に思い起
こさせてくださいました。その忍耐と時間をかけてくださったことに感謝します。
一緒に過ごした時間は本当に楽しかったです。あなたは最高です。大好きです。





この研修プログラムを手助けしてくださり、機会を与えてくださってKITAに感謝いたします。言葉では私たちの心からの謝意を伝えることができません。皆さんのおかげで私達は個人にのみ役に立つのではなく、それぞれの国、その人々にも役立つことを講義から学び飛び立ちます。

JICAの友人、また家族の一員として私たちは日本を離れます。水環境行政を自国の人々の利益になるように変化をもたらす方法を伝えるという共通の目標があります。

では、研修員仲間の皆さんの母国語で感謝を述べたいと思います。

- | | | |
|------------|---|-------------------------|
| 1. スリランカ | - | Bohoma Sthuthy |
| 2. カンボジア | - | Or Kum |
| 3. ミャンマー | - | Kyae Zu Tin Par Tal |
| 4. ジンバブエ | - | Tatenda |
| 5. カーボヴェルデ | - | Obrigado/Muito Obrigado |
| 6. エジプト | - | Shokran |
| 7. ウルグアイ | - | Muchas Gracias |
| 8. フィジー | - | Vinaka Vakalevu. |

アリガトウゴザイマシタ。

日本と日本の方々に神のご加護がありますように！

6. 研修思い出アルバム

JICA九州で講義



研修先訪問



スライドショー

クリックして写真集をご覧ください

研修先訪問



研修先訪問

